

令和4年度 第2回長野市社会教育委員会議 要旨

- 【日時】令和4年11月25日(金) 午前10時～正午
- 【場所】長野市役所第一庁舎4階 教育委員会室
- 【出席者】委員 山岸委員長 伊藤副委員長 小島委員 重野委員
吉澤委員 小松(美)委員 福田委員
事務局 藤澤教育次長 野池家庭・地域学びの課長
前田家庭・地域学びの課長補佐 古平家庭・地域学びの課係長
西村家庭・地域学びの課主事 平野家庭・地域学びの課社会教育主事

【協議事項】

- (1) 第四次長野市子ども読書活動推進計画の中間答申について
事務局より、資料1-1・資料1-2・資料1-3について説明
- (2) 第64回全国社会教育研究大会広島大会について
事務局より、資料2について報告
- (3) 第53回関東甲信越静社会教育研究大会山梨大会について
事務局より、資料3について報告

【主な内容(質疑・意見)】

協議事項(1)について

- (委員) 資料1-2 29ページの担当課について、「市立図書館」と「長野図書館」と記載を分けてあるのはどのような意味か。
- (事務局) 担当課に「長野図書館」と記載してある項目は市立長野図書館のみの取り組み、「市立図書館」と記載されている項目は市立長野図書館と市立南部図書館2館の取り組みという意味である。今後、表記方法について検討する。
- (委員) 長野市の人口に対し、市立図書館が2館しか無いのは少ないと思う。公民館図書室が市立図書館分室として機能しているのか。
- (事務局) 市立南部図書館の隣にある篠ノ井交流センター以外の市立公民館・市交流センターに市立南部図書館の分室が設置されている。分室では、本館にある本をリクエストして借りることもできる。
- (委員長) 説明を聞いて印象的だったのは、(計画の中に)「特別な支援を必要とする子ども」という文言がかなり出てきていることである。発達障害のうち、学習障害(LD)のお子さんの場合、能力的には高くても文字が読めない、(文字が)揺れて見えてしまうということがあり、私達がイメージするものとは全く違う見え

方の世界がある。(計画の中に)音声読書等について入れていただいているのは(そのような子どもたちにとって)非常に優しい内容になっていると感じた。

(委員) 資料1-2 22ページの「家庭での読書活動が、子どもが読書に親しむために大きな役割を果たしている」という文言については、保護者の立場としては耳が痛い。自分自身が本を開く機会が本当に少なくなってしまう、代わりにスマホをいじってしまうことが多い。おそらく、他の保護者もそのようなことが多いのではないかと思う。また、時間が無く本を読むことができないという保護者も多々いると思う。

普通に生活していると、本に親しむ機会は全く無い。市立図書館の取り組みは、どれも自分から行かなければ本に接することができない内容である。本屋さんに行こう、電子図書を読もうという気にもならないので、何かきっかけになるものが欲しいと思っている。学校図書館と市立図書館の連携というお話があったが、学校からのおたよりでおすすめの本や新刊本等の紹介をしていただき、少しでも自分の心に入ってくるものがあると良いのではないかと思う。7~8か月児健康教室で絵本を配付する「おひざで絵本」事業で絵本をもらったことをきっかけに絵本を手取るように、少しでもきっかけをいただけると嬉しい。

(委員長) 貴重なご意見だと思う。ただ今の意見に関していかがか。

(委員) 資料1-2 26ページ「施策5 子どもを取り巻く環境としてのおとなの読書活動の推進」にもつながると思う。この施策では市立図書館からの働きかけが多いが、市立図書館でどのようなことをやっているのかは中々見えづらかったり、自分で情報を取りに行かなければならない。どこに書けば良いかは難しいところではあるが、例えば、市報に毎月コーナーを設けるとか、そんなことをやるのが良いのではないかと思った。

市立長野図書館で、昨年から大人のためのおはなし会を企画しており、私もそこに参加をさせていただいた。コロナ禍であったこともあり、定員は20人程度だったが、あっという間に一杯になった。ただ、そこに来るのは(本が)好きな人である。そういう人は自分で情報を取り、出掛けて行く。やはり、先ほどのお話のように(本に)あまり興味が無い人や、忙しい人は情報が抜けていってしまうので、とても難しいことではあるが、そういう方に情報を届けるにはどうしたらよいかをもう少し突っ込んで考えていただけると嬉しい。

(委員) 資料1-2 30ページ「施策7 関係機関の連携と普及啓発の推進」について、町の本屋さんは大切であると思うが、長野市の町の本屋さんは消えつつあり危惧しているところである。書店との連携についても計画内に盛り込んでもらっているので、ぜひとも実現させてほしい。

(委員長) いかにして情報を発信していくかという話題かと思うが、他にご意見はあるか。

(委員) 知的なものを繋いでいくということは、膨大なスケールのもので、人類にとって極めて重要な活動であると思っている。それをどのように実質的な形にしていくかということは非常に重要で困難なことである。理想的な目標を掲げるとは簡単であるが、やらなければならないことは広い。長野市の施策なので、長野市にはどのような子どもの課題があるのかということや、5年後・10年後に(長野市の)良さが持続し問題が解決できそうかを予測するということろでないと、限られた予算・人員の中であれもこれもあったらいいなというのは無理な話だと思う。ただの絵に描いた餅になってしまう。

教育に携わる行政の立場から色々なデータをお持ちだと思うので、長野市の他市とは違う基礎的体力の強さと弱さを分析するべきである。また、1歳と18歳では違いすぎるので、長野市としてどのあたりの(年齢)にウエイトを置きたいのかということをもう少し練られた方が具体的になると思う。資料の範囲も漫画、外国言語の書籍、標本、切り取って工作ができるもの等本当に様々である。資料によって刊行目的や購読対象も異なるため、その資料を何のために何の目的で手に取るのかということを考えて、長野市はどの範囲を(第四次計画の)5か年で喫緊の課題としてターゲットを絞っていくかということを考えていかなければいけない。バリアフリーというお話については、グローバル社会の中でまた別に考えていかなければならない。

また、目的の情報へのアクセス方法や情報の記録方法についての研修が大切ではないかと思う。そのあたりのうま味が分かれば、単純に数値を上げることはできるかもしれない。

教育委員会として、子どもたちの健やかな人間力の育成を基本にされていると思うので、子どもたちの探求心や好奇心、生涯にわたる学び続ける力の基礎を作ることがベースになると思う。対象資料の範囲、活動目的の明確化、どの年齢をターゲットにするか、エリアについては、長野市には中山間地域も含まれているので、そのあたりについても特別な検討が必要だと思う。いいづな号(移動図書館)は素晴らしいと思うので、ぜひ継続させてほしい。長野は雪が降り、越冬しなければならないという特性があると思う。越冬するときに、暖かくして色々な活字に触れ、楽しい情操教育ができればよいと思う。

(委員長) 目的と手段のお話であったかと思う。パブリックコメントを実施したときに、どのような年齢層からどのような手段で、どのような意見が出てきたか分析をしてみると見えてくるものがあると思う。パブリックコメントはできるだけ多く欲しいので、そのあたりの手立ても工夫をしていただきたい。

(委員) 資料1-2 32 ページの数値目標「おひぎで絵本」事業での絵本配付率について、目標値である92.4%はコロナ禍前の水準ということであったが、7~8か月児健康教室に来たお子さんに絵本を配付するとなると、この数字は7~

8か月児健康教室の参加率と同じ数値ということか。

(事務局) 絵本は、保健センターで行っている7～8か月児健康教室に参加ができなかった場合、1歳の誕生日まで受け取ることができる。そのため、数値目標は7～8か月児健康教室の参加率よりも高い数値となっている。

(委員) 長野市では「個を追うことができる」ということで、ネウボラを推進している。個々を追っていけば、7～8か月児健康教室に参加していない方へ保健センターからのアプローチがあるはずである。そうすればもう少し配付率を上げることができるのではないかと思うがどうか。

(事務局) 対象者へ郵送で届けるという方法もあるかと思うが、そこまでは今のところ考えていない。

(委員) (7～8か月児健康教室に) 来なかった親子に対して、保健師からのアプローチはできないか。そのためのネウボラだと思う。そういう(フォローが必要な)人に限って健康教室に来なかったりする。絵本を渡すことを口実にアプローチすることはできないだろうか。健康課とうまくタッグが組めれば良いと思った。

(事務局) 健康課と相談する。

以上